

## 【戸塚区】平成 29 年第 2 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	平成 29 年 6 月 5 日(月) 14 時 30 分 ～ 16 時 00 分
場 所	戸塚区総合庁舎 9 階特別会議室
出席者	<p>【座 長】伏見幸枝議員</p> <p>【議 員：5 名】岩崎ひろし議員、坂本勝司議員、鈴木太郎議員 中島光徳議員、山浦英太議員</p> <p>【戸塚区：23 名】田雑由紀乃区長、鈴木栄副区長、塚本光俊福祉保健センター長、鈴木裕子福祉保健センター担当部長、橋本孝二土木事務所長、名取正暁戸塚消防署長 ほかに関係職員</p>
議 題	・平成 29 年度個性ある区づくり推進費 戸塚区予算執行計画等
発言の旨	<p>岩崎議員：戸塚区の町内会、地域の防災組織及び区は、リニューアルした市民防災センターをどう活用しているのか。</p> <p>齋藤総務課長：区では、地域防災拠点運営委員会の委員長を集めた総会で、市民防災センターを紹介した。最新の設備を体験できるセンターだと P R したので、どのくらい使われているのか、機会があったら伺ってきたい。</p> <p>名取戸塚消防署長：消防署でも区役所と連携して様々な機会でも P R している。リニューアルしてから 3 月末までの利用者数は 3,803 名、115 団体が利用した。昨年度区役所と連携して実施した小学生を対象とした防災バスツアーを今年度も検討してきたい。</p> <p>岩崎議員：総務局危機管理室が新しく作成した防災のパンフレットは全市で 3 千部しか作成されていない。市民の規模に見合った数、各区や地域で活用できる数があるとよい。また、訓練等で活用する機会を作ってほしい。市が作成したものを上手に使い、啓発に力を入れてほしい。</p>

齋藤総務課長：小学校の統廃合もあり、今年度は防災区民マップを6月の発行をめざして改定する。6千部作成し、転入者セットに同封するほか、区役所や行政サービスコーナーで配布する。また、減災フェアでも配布し関心を高めていきたい。全世帯配布となると13万部作成する必要があるが、手軽な印刷物としてA3二つ折りの防災ミニマップを作成しており、こちらは多く配布している。こういったものをできるだけ多くの方に配布できるよう努めていく。

岩崎議員：18ページ「区民に身近な広聴・相談事業」の「④区民意識調査」だが、設問を工夫していいものにしてほしい。横浜市が毎年実施している市民意識調査の一部なのか別だてなのか。

寒河江区政推進課長：市民意識調査は調査対象者が市全体で20歳以上3千人のため、戸塚区で調査対象者となるのは200人弱程度なので、戸塚区の地域性の把握や区の課題を収集するにはデータが不十分である。一方、区民意識調査は、区の施策や事業について、区民の皆様の声を直接お聞きすることで、区の課題や地域ニーズを把握することができることから、3千人を対象に、3年に1度実施している。

山浦議員：14ページ「～地域で支える～こころの健康福祉ネットワーク事業」の対象者はどうなっているのか。

高瀬高齢・障害支援課長：精神障害の手帳をお持ちの方、持っていないくてもこころの病の方を対象としている。

山浦議員：来年度から放課後デイケアの指定基準が見直されるが、人員体制が大きく変わり、運営が非常に厳しくなるので、障害のある子ども達に移転を余儀なくされるのではないかと心配されている保護者の方がいる。放課後デイケアが普及するあまり、放課後デイケアの他に障害がある子どもや親が地域と触れ合える場がない。局と協力して保護者の心配をフォローしてほしい。また、社会福祉協議会等と協力して集える場を作してほしい

土井こども家庭支援課長：年間400名弱の利用がある。子ども達中心のサ

ービスになっているので、局と連携して保護者の方への対応も検討していきたい。

山浦議員：10ページ「快適な暮らし応援事業～食の安全・生活衛生の強化～事業」の「②ハチ対策及び動物適正飼育啓発事業」でタイワンリスやタヌキの被害対策は行っているのか。

白井土木事務所副所長：各公園でタイワンリスの被害が出ている。ケヤキの木をかじられており、枯れ木になり倒木の恐れがあるので、対策を考えている。環境創造局動物園課が所管だが、大きな公園でプロジェクト的にリスを捕獲している。鎌倉方面からやってくるが、抜本的な解決策がない。区内の高校でリスの研究しているところがあるので、連携しながらタイワンリスを含む外来生物への対応を検討していきたい。

磯田生活衛生課長：タイワンリス、ハクビシン、アライグマ等は野生生物であり所管は環境創造局動物園課になる。生活衛生課に相談がきた場合には局の事業を紹介し問い合わせ先の動物園課を案内している。

山浦議員：情報発信してほしい。

伏見議員：9ページ「青少年健全育成事業（防犯力強化）」は、消防署が学校に出向いて講義を行っているとのことだが、学年単位か、少人数か。

卯都木地域振興課長：消防署と青少年指導員に協力いただき、消防訓練センターで行っており、学年ごとではなく、区内の高校生・中学生に校長会等でお知らせして集まっていたいている。

伏見議員：災害が平日の日中に起きた場合、地域にいるのは子ども達と女性の方々なので、女性の消防団と子ども達のつながりがもてるとよい。若い担い手づくりのためにも、教育委員会と調整して、消防団と子ども達の合同訓練に取り組まなければならないと思うがどう考えるか。

名取消消防署長：世代に応じた防災教育の在り方があると思う。幼稚園生であれば消防や防災に興味を持ってもらう。小学4年生はお出かけ防災

教室をやり、自分の身を守るとはどういうことなのか伝えていく。中学校になると、自助だけでなく共助に踏み込んで教育していく。お出かけ教室は消防署に来てしまうので消防団と触れ合う機会はないが、中学校の救命講習には消防団にも参加いただいているので、最後に防災のことを講演したり、消防団を身近に感じていただく形で対応していきたい。

伏見議員：札幌市の防災訓練を見てきたが、中学生や高校生も参加しており、土嚢を積んだり担架で運ぶ訓練を日頃からしているので、テキパキと行っていた。若い担い手がいざ何かあった時に動けるよう、考えていかなければならない。また、川に近い、崖が多いなど地域の特徴に合わせた訓練も進めてほしい。

名取消防署長：青少年健全育成事業は、東日本大震災の際に大人の方があまりいなかったため、青少年指導員や中学生に共助の精神を学んでもらうことから始めたので、これからも取り組んでいく。

鈴木議員：8ページ「戸塚区民まつり事業」について、下川町、昭和村等他の自治体が来ているが、なぜあの自治体なのか。

卯都木地域振興課長：これまでに戸塚区や横浜市と付き合いのあるところや災害で被害のあった地域の方々を応援しようと実行委員会の中で相談して決めている。

鈴木議員：これ以上増やす予定はないのか。つながりのある自治体はあった方がよい。様々な面でウィンウィンの関係になるだろうし、今横浜の中のどっかの区と連携したいと思っているところがたくさんある。戸塚区の中の地域のどこかと何かしらのつながりのあるところがある。下川町もそうして始まってここまできている。間口を広げてもいいのではないか。そのための第一歩として区民まつりの他都市ブースを活用したらどうか。

卯都木地域振興課長：区民まつりはスペースの問題もあるので、実行委員会に今日頂いた意見を紹介して議論していきたい。

鈴木議員：矢部小学校で山梨県身延町と交流している。こういったところと交流が深まっていけばよい。すぐに実行しなくてもよいが、頭の片隅に入れておいてほしい。

14ページ「戸塚区高齢者見守りネットワーク事業」の「みまもりネット」は連絡会に一工夫ほしい。ケアプラザと見守る側の諸団体が集まって情報を共有する場だが、ワークショップをするなど仕掛けをした方がよい。川崎の認知症ケアパスを作っている仕組みで、「旅の言葉」というパターンランゲージを使って、対話を通じてお互いの理解を深めようというものがあり、今注目されている。これを開発したのは慶応義塾大学湘南藤沢キャンパスの井庭崇先生であり、旅の言葉の著作権を持っているが、その会社は戸塚区にある。連絡会で使えば、深まると思うので検討してほしい。

高瀬高齢・障害支援課長：みまもりネットの連絡会は今年度も年2回開催する予定である。お互いどんなことをやっているかということ少人数のグループワークで行っているの、そこでのテーマの設定についても、検討していきたい。

鈴木議員：緑化フェアの最後のレセプションで横浜市立大学木原研究所産の大麦を使って厚木のクラフトビール工場で醸造されたビールが出されたが、戸塚区は承知してなかったのか。

寒河江区政推進課長：木原研究所には2年前くらいに、小麦を使ったビールを作ることができないか相談にいったところ、木原研究所でも神奈川県産の小麦を使ってビールを作ろうとしていたが、県内産の小麦を生産ベースに必要な量を調達できずに断念した経緯があるので、戸塚区でやろうとした場合、麦の調達が課題になるとお話をいただいた。それをヒントとして下川町の小麦を使用できないかと考えた。木原研究所と厚木の工場との連携は承知してなかった。

鈴木議員：ビールができたのだから、これを戸塚区が取組としてうまくリンクさせて取り込む話にしていったらどうか。木原研究所が舞岡にあるのだから、戸塚区にゆかりのあるもので質の高いものを広く紹介してい

くという枠組みを区役所がやってもいいのではないか。環境創造局が公園の利活用に踏み込んでいるから、いずれ公園で販売できたらよい。

寒河江区政推進課長：下川町の特産である小麦「ハルユタカ」と戸塚の特産品をコラボレーションさせたものを作りたい。今、なし農家や市内のビール醸造所のタンクの空きスケジュール等を調整している。

鈴木議員：保育所整備は重点整備地域でないとできないが、戸塚区では戸塚駅周辺と東戸塚駅周辺がなっている。戸塚駅周辺は供給が追いついていないと聞いているが、保育所は十分か。

繁野学校連携・こども担当課長：今までは東戸塚駅周辺の物件が出てこなかったが、現在は戸塚駅周辺の物件が見つからず苦戦している。

鈴木議員：物件が見つからないのは、駅前の土地の利活用が進んでいないことにも原因がある。道路の区画整理が終われば出る用地がある。ただ探すのではなく、情報をとってやっていただきたい。

7ページ「区民活動支援事業の読書活動推進事業」だが、戸塚図書館として何をするのか。

長谷川図書館長：乳幼児や就学前の子どもと保護者の来館も多く、小学校に入るまでの間にどれだけ豊かな読書活動をしてきたかが大事になると考えるので、地域振興課と進めていきたい。

坂本議員：下川町との連携のビールは魅力的なので積極的に進めていただきたい。6月1日から1か月間、戸塚駅及び東戸塚駅の17店舗によるビールにあったメニューを競う「Beer-1グランプリ」が行われているが、ビールつながりで戸塚区の目玉にもなるかと思うので、チェックしてほしい。

戸塚駅西口の緑化フェア記念ガーデンの椅子は緑化フェアが終わった後どうしていくのか。

白井土木事務所副所長：緑化フェア終了後も同じように設置し、管理は地元の商店街や地域の団体をお願いして引続き区民の皆様にご使用いた

だく。戸塚区の4つの駅を中心にボランティアと花を設置する試みを考えている。

坂本議員：草花が駅前にあるとほっとする空間になるので、予算もかかると思うが、継続してほしい。ちょっと腰を下ろせる空間が欲しいと要望があるので、ペDESTリアンデッキ全体を憩いの場として改善するよう検討してほしい。

エスカレーター工事の際は安全に注意して整備してほしい。

ハック側のエレベーターの使用頻度が低いので、ローソン側に渡る横断歩道を設置し、動線を確保してほしい。

白井土木事務所副所長：ハック側の道路は駐車車両が多く、車の行き来が阻害されている。警察に駐停車禁止にならないか協議しているが進んでいないので、道路の形を変えられないかも含め検討している。横断歩道は曲がり角にかかりドライバーから見づらくなっている。歩行者動線を踏まえ、エレベーター利用頻度を考えていきたい。

坂本議員：ポールを路肩側においているが、センターラインに並べられないのか。

白井土木事務所副所長：センターラインにポストコーンをつけると、乗用車が駐車している時バスが追い越せなくなってしまう。最終的な手段として考えられるが、現在は入口出口のところにポストコーンを設置して少しでも駐車されないようにしている。区役所1階の交通広場の利用頻度も低いので、そちらの利用頻度も向上させながら、戸塚駅西口全体の駐車について考えていきたい。

坂本議員：マンションの送迎はマンションの自治会と降車場所の検討はしているのか。

白井土木事務所副所長：マンションや病院などマイクロバスの送迎がいたるところで行われているが、マイクロバス乗降場所の適地がない。住み続けたいまち・みちづくり推進事業の中で検討している。

坂本議員：18 ページ「効果的で分かりやすい広報事業」の「②様々なメディアを用いた情報提供」だが、エフエム戸塚が認知されていない。行政情報を流しているということもあるので、例えば交通広場で流すなど何かできないか。

寒河江区政推進課長：エフエム戸塚とは防災協定も結んでいる。例えば商店街では流れているが、公共の場で流せるのか、手法を検討していきたい。

中島議員：3年後のオリンピック・パラリンピックに向けて、戸塚区民が感じられるレガシーを戸塚区として残してほしい。

田雑区長：昨日ブリヂストンで「ブリヂストン × オリンピック × パラリンピック a GO GO！」というイベントに参加したが、オリンピックと触れる機会は子ども達にすごく残ると感じた。パラリンピック協会の方がこんなにオリンピックとパラリンピックと一緒に盛り上げられる時代が来ると思わなかったと話していた。地道にスポーツと触れ合う、あるいは、女子ラグビーのように日の浅いスポーツを盛り上げて応援する地道な取り組みをこれからもしていきたい。冠をつけるのは中々難しいと思うが、一流選手にアドバイスをもらうことなどを大切にしていきたい。

中島議員：戸塚区内のスポーツ関係団体からスポーツする場がないという声がある。区内には大学、企業、消防訓練センターがあるので、区がつなぐことが大事である。小中学校が38校あるが、夜間照明がつくのは深谷中学校と東戸塚小学校であり、利用率が高い。静岡市では130校中121校の90%に夜間照明がついている。横浜市は22校、4.5%しかついていない。場の創出に夜間照明は有効であり、公的な場の有効利用、一時避難場所の夜間活用や熱中症対策にもなる。静岡市は地域から要望があったところに設置し、市民局が運営し、苦情は年間数件しかないと聞いている。議会で教育委員会が前向きに答弁しているので、学校を有効活用した場の創出がレガシーとして残っていると思う。

田雑区長：教育委員会とも意見交換しながら、地域との関係も含めて勉強

させてほしい。

中島議員：株式会社メディセオは、5年前に横浜市と災害時に医薬品等を提供する災害協定を結んでおり、戸塚に会社があるが、戸塚区との連携はあるのか。

松本福祉保健課長：区として関われるものがないか、検討していきたい。

中島議員：横浜市と協定を結んでいる区内の企業と連携をとってほしい。災害時にバイクで配達してくれること等を区民が知れば、安心にもつながる。

横浜 FC の区民デーは戸塚区とどう連携しているのか。

卯都木地域振興課長：区民デーはチームから依頼があり、区もブースを出して行っている。

中島議員：外で戸塚区の商店街がブースを出して売っているが、あまり知られていなくて、行った人でないとわからない。戸塚区としてブースを借りるなど積極的な関わりをもつとよい。

卯都木地域振興課長：区でチラシを作成して、回覧や掲示しているが、商店街のブースを紹介したり、ブースを広げていくことができないかチームと協議していきたい。

中島議員：戸塚ストリートミュージシャンがコンテストで優勝したら区民デーの場で歌えるなど、区として区民デーを活用してほしい。

伏見議員：13 ページ「子どもを取り巻く虐待予防環境づくり事業」だが、リーフレットとカレンダーはこれから作るのか。

土井こども家庭支援課長：リーフレットは既にあるもの。カレンダーは今年度の新規事業で現在応援メッセージを募集しており、11月の虐待月間に各関連機関に設置したい。

	<p>伏見議員：虐待の相談フリーダイヤル「189」はもちろんであるが、「よこはま子ども虐待ホットライン」が浸透していないので、掲載してほしい。</p> <p>土井こども家庭支援課長：掲載するよう調整する。</p>
備 考	